



IUFRO-J NEWS

No. 43 (1991. 7)

評議員会へのバックマン前会長の報告

ユフロ-J 議長 小林 富士雄

1990年8月ユフロ世界大会期間中に開催された国際評議員会において R.E. Buckman 会長(当時)は次のような会務報告を行った。これは4年間(1986~1990)の総括であるので参考になると考えここに訳出した。

緒 言

第19回大会は、1892年にドイツ Eberswalde で創立されたユフロにとって最初の1世紀の最後を飾る大会である。この1世紀(100年)を終るに当たり、国際評議員のメンバーが2世紀にむけてユフロの進むべき方向を示してくれることを望むものである。今大会のテーマはまさに次の100年の準備である。

現在のユフロの機構は1971年に定められたもので、本日の評議員会(IC)をユフロの最高機関としている。各国代表1名から成るICは主たる業務を大会時に行うほか大会時以外にも適宜相談をうけることになっている。

第二の最高機関である理事会は、地域及び学問領域を代表する26名から成り(拡大理事会の場合はこれに副コーディネーターと特別計画代表が加わる)、研究計画と運営計画を進行させる。

ユフロの中心的な仕事を行っているのは36の subject (専門分科)と25の project (これらはさらに181の working group に分かれる)であり、これらは世界の林業を支える殆んど全ての科学分野での協力と情報交換を促進する役割を果たしている。

理事会の活動を分けるとサイエンスプログラムと管理運営プログラムである。先ずサイエンスプログラムについて述べる。

サイエンスプログラム

1986~1990年の今期間に合計207のワークショップ、シンポジウム、セミナーがユフロのグループによって開催された。参加者数は10人程度から数百人の規模にわたり、その約50%はヨーロッパで、25%がその他の先進諸国で、残りの25%が途上国で行われた。ユフロの規模や範囲が拡大するにつれ、地域集会や熱帯・途上国の集会がもっとふえることが望ましい。サイエンスプログラム分野から提案する重要な変更は一つ、即ちいくつかの subject と project グループを再編し Division 4 (蓄積, 生長, 生産量, 経営システム) と Division 6 (社会, 経済, 情報, 政策) に分けることである。

SPDC (途上国特別プログラム) は1986年評議員会によって強力に支持承認されて以来、我々が期待するほどの速さでないにしろ前進を続けている。CGIAR (国際農業研究協議グループ) は原則的に林業研究を取入れることになったが、その取扱う内容と取扱い方については未だ多くの問題点があり現在議論されている。SPDCの仕事でCGIARに編入されないで残る部分は当分の間SPDCが行うことになる。世界中の途上国林業研究は結局二つの路線つまりCGIAR内部と外部に分れることになる。non-CGIARの部分についてはユフロSPDCが強く関与し、長期的にはこれが唯一の活動分野として残ることになる。

ユフロ News 19 No 2/3 の SPDC 報告のバラグラフ 11 を引用すると「1989 年におけるユフロ SPDC の顕著な動きは林業界一般、さらにはとくに国際援助組織によって SPDC の identity が公的に認められることにむけられた。本年末に至って、全てとはいえないが、漸く認識される明しが見えたといえることができる」と書かれている。このような承認の動きを如何に現実のものとするかが今後の問題である。

私にとってもユフロにとっても残念なことは、SPDC コーディネーターを 8 年間勤めた Oscar Fugalli が退任を表明したことである。彼の後任選は直ちに始めるが、現在コーディネーター代理として ODA (英国海外援助局) が John Palmer を送り出してくれたことは有難いことである。

サイエンスプログラムについては 3 件を報告する。その 1 つは今大会に IUFRO World Series 第 1 巻 (林業経営に関する多国語字典) と第 2 巻 (林業十進分類法) を送り出すことができた点である。第 2 はユフロの各種賞典授与の件である。前大会以来名誉会員は 4 名を新たに加え合計 14 名となり、学術賞は 9 名を加え 35 名となり、功績賞は 13 名を加え 22 名となった。第 3 はユフロの第 4 公用語としてスペイン語を加えることを提案する件である。

管理運営プログラム

ユフロの管理業務は益々複雑かつ大規模になってきた。この 4 年間に Jim Cayford を中心として、事務局・財務局査察を含む全ての管理活動を集中化するべく努めてきたがこれは有効に機能しつつある。

事務局は 1986 年以來大きく変化した。Otmar Bein は 15 年間勤務した事務局長を 1987 年に退任し Heinrich Schmutzenhofer が新任した。この交代を機にユフロとオーストリア政府の関係が全て見直しされその結果、全ての関係が再認され関係が強化された。オーストリア政府はユフロに対し年間約 13 万ドルと事務室・各種サービスを供与している。

事務局の改善は電話など連絡手段、コンピューター、ファックスなどの増設のほか、重要なのはユフロ News の編集・印刷の大幅改良と SPDC の設備充実である。事務局の活動は財政の許す範囲内で改良された。ユフロの神経中枢としての事務局の能力は強化された。惜しまず援助して下さったオーストリア林試とオーストリア政府に感謝したい。

財務事務の独立と事務局新設は 1981 年に行われよく

機能している。Franz Schmithüsen と F.X. Lipp 両氏と Birmensdorf にあるスイス林試に感謝する。場長からは事務局の援助に協力する旨の保証を受けている。

ユフロの財政について会員の関心を喚起したい。ユフロの全財産は約 90 万スイスフランで 1986 年から殆んど変化していない。収入は続けて増えているが必要支出以上のスピードでは増えていない。ここで過去 15 年間固定してきた会費の増額を提案したい。

事務手続きの点については、通常事務と SPDC 財務のため会計及び監査手続の改良が進められている。

加盟機関 (sub 機関を除く) は前大会時以來 473 から 499 に増加した。加盟国は同期間に 100 から 106 に増加した。しかし登録人員は過去約 10 年間はほとんど動かず 14,600 名にとどまっている。

会員問題で困っているのは会費の未払いである。未払いは主として途上国の組織機関である。次期 (1991~1995 年) にはこれらの諸問題が効果的に解決されるメドがつくことを希望する。

ユフロ規約の重要な変更について会員の注意を喚起したい。その第 1 点はオーストリアにおけるユフロの法律上の位置づけを明確にすることであり、これはユフロ SPDC などへの外国援助機関からの寄付行為に必要となる措置である。第 2 点は二人目の副会長新設などを含む管理運営上の改正である。その他いくつかの規約改正点を提案する。

評議員会

我々は定期的通信、ユフロ News、さらに地域での理事会への参加招請などを通じ評議員への情報提供に努めてきたが、まだ充分とはいえないと思っている。評議員会への提案を事前に要請したが提案はいつでも歓迎する。

今回理事会と評議員の任期が一致するように規約変更を提案する (従来は理事会任期が終了する大会の直前に評議員が選出されていた——訳者註)。このことにより評議員が理事や他のリーダー達と同時期に効果的な働きができるようになる。今回は移行期であるので今期の評議員は今期・次期の理事会と重複することになる。

皆さんが参加機関、国内研究集会指導、SPDC プログラムなどの諸問題に効果的に参加されることを期待する。管理運営業務を担当する会長代理の新任などユフロの管理面を強化することによってこれからのコミュニケーションがうまくいくようになると考えている。

IUFRO 理事会に出席して

東京大学農学部 佐々木 恵彦

平成3年1月より、IUFRO 理事会のメンバーが新しくなり、その初めての理事会であったため、一緒に旅行しながら、おたがい親密になることができた。地元の人々を加えると、50人以上の人たちが一台のバスでメルボルンからキャンベラを経由してシドニーまで旅行したので、まさに、大旅行であった。

理事会の日程

平成3年4月7日から4月13日まで一週間、オーストラリアのメルボルン、アルバニー、キャンベラ、シドニーの各地を転々と移動しながら、会議と視察旅行をおこなった。

- 4月7日：メルボルン着（出発前、連絡が不十分だったが、空港に出迎えがあり、感謝した。その日はホテルで、会長、副会長、事務局の会議のみ。）
- 4月8日：メルボルン郊外にあるニューサウスウェルズ州政府自然保護・環境部森林課において、理事会および分科会
- 4月9日：メルボルンからアルバニー着、水源林としての巨大ユウカリ天然林、冠水地形のレッドガム林などを視察
- 4月10日：アルバニーからキャンベラ着、途中記念植樹、ラジアータマツ植林地視察、乾燥地のユウカリ天然林の視察
- 4月11日：キャンベラの農山村資源局において、理事会、夜、国会において、一次産業エネルギー省大臣訪問、国会見学
- 4月12日：午前中、理事会、午後シドニーに向け出発、夜、ニューサウスウェルズ森林局着、局長訪問および夜行性動物見学
- 4月13日：最終打ち合せ、シドニー市内において、オーストラリア特産の動物見学
- 4月14日：シドニー発

以上のように、日程は極めて忙しく、会議と旅行がからみ、キャラバン会議とでも言えるかも知れない。しかし、初めてオーストラリアを旅行する人が多く、メルボルンからシドニーまでの2000キロ以上の旅行で、オーストラリアの広大さ、どこもユウカリという森林の不思議さ、オーストラリア特有の動物相に感心したのではな

かろうか。

理事会の構成

マレイシアのFRIMの所長 Dr. Salleh が会長に就任し、欧州、北米諸国以外の地域から初めて会長が誕生した。副会長には Dr. Cayford（総務担当、カナダ）と Dr. Burley（プログラム担当、イギリス）が就任した。そのほか、前回まではアジア地域代表理事として、森林総合研究所の小林所長が活躍されていたが、本年度からアジア地域代表理事は中国の Chung 氏に交代した。これまで、佐藤、松井、浅川、小林の4氏が連続して IUFRO 理事として、活躍されてきた。佐藤、松井両氏は IUFRO の京都大会を成功させ、浅川、小林両氏は IUFRO-SPDC（IUFRO における開発途上国の森林研究プログラムの推進）の発展に努力され、日本からの資金援助を実現されるなど、大きな貢献をされている。こうした先輩の活躍の結果として、日本からは今回、会長指名理事を出すことにより、私とその任に当たることになった。

理事会は会長、副会長、研究部門のコーディネーター、地域代表理事、会長指名理事などから構成されているが、普通は拡大理事会において、問題が検討される。拡大理事会には、各研究部門の副部長（デビュティコーディネーター）、FAO 代表、SPDC コーディネーター、タスクフォースコーディネーター（特別問題コーディネーター）が参加している。

理事会の構成メンバー

- M.N. Salleh (President, Malaysia)
- James H. Cayford (Vice President, Administration, Canada)
- Jeffery Burley (Vice President, Program, UK)
- Robert E. Buckman (Past President, USA.)
- Franz Schmithusen (Treasurer, Swiss)
- Heinrich Schmutzenhofer (Secretary, Austria)
- Jacob L. Whitmore (Div. I, Coordinator, USA.); Jiro Kikkawa (Australia); Eero Paavilainen (Finland); Rodolfo Salazar (Costa

Rica).

Howard B. Kriebel (Div. II. Coordinator, USA.); Hsu-Ho Chung (China); Ryszard Siwecki (Poland); Eric Teissier du Cros (France).

Per Olov Nilsson (Div. III. Coordinator, Sweden); Korge Roberto Malinovski (Brazil); Lorne F. Riley (Canada); Paul C. Mitchell (UK). Axel Roeder (Div. IV. Coordinator, Germany); Vladimir I. Chuenkov (USSR); Yukichi Konohira (Japan).

Amantino Ramos De Freitas (Div. V. Coordinator, Brazil); Christian G. Sales (France); John A. Youngquist (USA).

Fred H. Kaiser (Div. VI. Coordinator, USA); Egon Gundermann (Germany); Niels Elers Koch (Denmark); George Stankey (USA).

Roger T. Bradley (Regional Representative, Northern Europe, UK).

Jan Van Den Bos (Regional Representative, Central Europe, Netherlands)

Andras Winkler (Regional Representative, Eastern Europe, Hungary)

Alejandro Lopez de Roma (Regional Representative, Mediterranean, Spain)

Jerry A. SESCO (Regional Representative, Northern America, USA)

Antonio J. Prado (Regional Representative, Middle & South America, Chile)

Edouard Bonkoungou (Regional Representative, Africa, Burkina Faso)

Jusheng Hong (Regional Representative, Asia, China)

Marcia J. Lambert (Regional Representative, Western Pacific, Australia)

Pentti T. Hakkila (President Nominee, Finland)

Wartono Kadri (President Nominee, Indonesia)

Anatoly Petrov (President Nominee, USSR)

Satohiko Sasaki (President Nominee, Japan)

Hollis C. Murray (FAO Representative)

Lorne F. Riley (SPDC Coordinator, Canada)

Rodolphe Schlaepfer (Task Force Coordinator, Swiss)

さらに、研究部門のコーディネーターはプログラム分

科会委員会を構成し、地域代表理事と会長指名理事は総務担当分科会に割当られた。このほか、特別な委員会として、賞推選委員会、起案委員会が設けられている。賞推選委員会には Vanden Bos が委員長に、起案委員会には Dr. SESCO が委員長に推された。私は起案委員会に所属することになった。

理事会の全体会議では Dr. Salleh が議長として会議の進行をはかるが、分科会ではそれぞれの担当副会長が分科会を主催する。Dr. Cayford が総務分科会の議長となり、プログラムの分科会では Dr. Burley が議長として、会議の進行をはかっていた。

理事会の内容

いくつかの重要な議題があったので、それらについて報告したい。

(1) IUFRO 百年祭

IUFRO 百年祭が来年、1992年8月30日からベルリンとエベルスバルドで開催されることになった。この百年祭には祝典と研究部門の会合を考えているが、その概要は：

8月30日：ベルリンでレジストレーション、国際評議員会

8月31日：エベルスバルド付近のコリンの修道院で式典、音楽祭

9月1日：ベルリンで講演会、全体会議

9月2日：研究部門別会議

9月3日：同上

9月4日：1日見学旅行

そのあと、3-6日の研修旅行（ハンガリー、ポーランド、スイスなど）

招待講演の原稿と要約（要約は半ページ以内）の締切は1992年3月とする。レジストレーションの費用（大会費）は250ドイツマルクとなる。なお、詳細については、近く、通知するとのことだった。

(2) 次の IUFRO 世界大会

1995年にフィンランドのタンペレ (Tampere) で、8月6日から12日まで、世界大会を開催する。研究部門の活動を重視し、もっと、研究発表を中心に大会を組み立てたいとの意向をもっている。大会後の見学旅行については、フィンランドを中心に考えているが、一部近隣の諸国を回るグループも考えたい。組織委員会の組織案が検討され、承認されたので、今後、大会の準備活動を始めることになる。

(3) 国際機関との関係

DIV. 5 が ITTO の協力を得て、その活動を強化す

ることについて、理事会の承認を得たが、ほかの部門も同様な協力を求める際には、IUFRO PPC (Policy and Planning Committee) にあらかじめ通知してほしい。

SPDC (Special Program for Developing Countries) は熱帯林問題などについて特別の活動をおこなってきたが、今回、Mr. Fugalli からカナダの Dr. Riley に交代した。SPDC の活動基金が少なく、このままでは、1 年程度しか運用基金がないという報告があった。Dr. Riley は資金集めに努力しなければならない。

国際関連の問題として、CGIAR が東南アジアに国際森林研究所の設立を計画していることが報告された。CGIAR は Consultative Group on International Agriculture Research の略称で、国際農業研究協議グループともいわれ、全世界に 13 の国際農業研究所を運営している団体である。先進各国の国際機構課、世界銀行、アジア開発銀行、ロックフェラー財団、フォード財団、FAO、UNDP などがグループのメンバーとなっ

て、資金を出し、研究所の運営をおこなっている。13 の研究所の中に、フィリピンにある国際稲研究所 IRRI がある。CGIAR では、アグロフォレストリーの研究所とフォレストリーの研究所を追加する構想をもっている。この場合、SPDC の立場をどうするかが問題になるが、当面は SPDC に力を入れるべきと思われる。

(4) その他

次の理事会は 1992 年 3 月 1 日より 3 月 8 日まで、チリーにおいて開催される。

また、百年祭が開催されるため、変則的に 1992 年は二度理事会があり、8 月 25 日から 8 月 29 日まで、ポーランドで理事会が開催される。

IUFRO の年間予算が厳しくなってきたので、会員の拡大に努めるほか、会費の値上げについても、考慮しなければならない。しかし、会費の値上げについては国際評議員会の決定事項であるため、次回の評議員会において検討する。

モントリオール世界大会途上国研究者参加助成の報告

IUFRO-J から拠出した途上国研究者参加助成金に対して、モントリオール大会委員会より助成の詳細な報告と感謝の手紙が送られてきました。

報告によると、43 カ国 89 人の学者が助成を受けることが出来ました。

(内訳) アルゼンチン 1 人、オーストリア 1 人、ベニン 1 人、ブラジル 4 人、チリ 3 人、中華人民共和国 7 人、中華民国 1 人、コロンビア 1 人、コンゴ 1 人、コスタリカ 3 人、コートジボワール 2 人、チェコスロバキア 4 人、エクアドル 1 人、東独 1 人、ガーナ 2 人、ハンガリー 1 人、インド 17 人、イラン 1 人、韓国 1 人、リトアニア 1 人、マレーシア 1 人、メキシコ 2 人、モロッコ 1 人、ネパール 1 人、ニュージーランド 1 人、ナイジェリア 4 人、パプアニューギニア 1 人、パラグアイ 1 人、フィリピン 3 人、ポーランド 1 人、ルーマニア 2 人、南アフリカ共和国 1 人、スリランカ 1 人、スーダン 1 人、スイス 1 人、タンザニア 1 人、タイ 1 人、トルコ 2 人、ウガンダ 1 人、英国 1 人、ソ連 3 人、ユーゴスラビア 2 人、ザンビア 1 人。

総応募者 266 人の中から、発表論文、参加者母国・母

機関への寄与、発展途上国の優先、若い研究者の優先、熱帯関係グループ参加者の優先、地理的代表性、Division 的代表性、林業分野的代表性、性別的代表性という基準で選ばれました。助成は往復航空券、モントリオール滞在費、大会登録料の形で支給されました。

(財源) 拠出機関は以下のとおりでした。

IUFRO-J	8,209 カナダドル (100 万円)
Canada International Development Agency	153,600 カナダドル (1,871 万円)
US Forest Service (USA)	93,944 カナダドル (1,144 万円)
Rockefeller 財団 (USA)	17,288 カナダドル (211 万円)
合計	273,041 カナダドル (3,326 万円)

また、本助成による 89 人の他に、IDRC、UNEP、FAO、GTZ 等の機関により、70 人以上の助成が行われたとのことです。

IUFRO-J もささやかながら貢献出来たことを喜ぶと共に、多額の拠出をしてくれたカナダ、アメリカ機関に感謝したいと思います。(藤井久雄)

ユフロ 100 年記念大会のあらまし

—— オーストラリアでのプログラム委員会報告 ——

東京農工大学農学部 木 平 勇 吉

現在、ユフロは 6 部会のもとで 60 分科会と 177 の小分科会が活動し、105 ケ国の研究機関会員が世界の森林研究を支援している。このユフロは 1892 年 8 月 17 日に、ドイツで創設された。当時のメンバーはドイツの 6 州（バーデン、ババリア、ブランズウィック、ヘッセ、プロシア、ビルデンプルグ）、フランスのアルザス・ローレン州、オーストリア、スイスの代表であった。さて、この 100 年間の歴史を振り返り、今日の林学発展の意義を考える集会在明年、誕生ゆかりの地ドイツのベルリンで開かれる。このユフロ 100 年記念大会の内容が理事会プログラム委員会で検討されて、ほぼ成案が得られたので、その概要を報告する。

日程と場所

- 1992年 8月30日 登録（ベルリン）
 8月31日 記念式典とゆかりの地訪問
 （エベルスバルドのコーリン修道院）
 9月1日 代表講演（ベルリン工科大学）
 9月2, 3日 部会、分科会講演会（ベルリン工科大学）
 9月4, 5日 旅行（コースは選択）

記念式典

8月31日にベルリンをバスで出発し、エベルスバルドのコーリン修道院で午前10時30分から2時間記念式典が行われる。セレモニーにはドイツ連邦農林大臣、州知事を迎え、参加者全員で祝う。講演と音楽と食事・ワインが予定されている。午後は、林学記念広場で植樹、コンサートを含めて近郊ゆかりの森を訪れる。夜にベルリンへ戻る。参加者の体力を考え、“早帰り”の選択コースも検討中である。

講演と研究発表

9月1日はベルリン工科大学で代表講演会が開かれる。ここではユフロ活動100年と今日の課題について、世界の多方面の研究者による基調講演が行われ、とくに、国際社会における林学の役割について語られる。9月2日

と3日は部会ごとに会員による講演が予定されている。内容は部会により異なるが、部会代表講演と分科会での研究発表、そしてポスター発表が行われる。第4および第6部会の詳細スケジュールを例示しておく。第4部会の代表講演者として日本からは宇都宮大学内藤助教授による Quantitative concepts as a basis for sound decisions in research and management が決定している。

見学旅行

会期中には13コースの半日バス旅行、8コースの1日旅行、5つの3日間旅行（ドイツ国内）、4つの5～6日旅行（ドイツ、スイス、チェコスロバキア、ハンガリー、オーストリアを含む国際旅行）、その他に大会前のフランス旅行が計画されている。目的と内容は第1回案内状に記載されており、7月頃に会員機関にユフロ本部から届く予定である。

記念出版

「ユフロ100年」が編集されており、11人の執筆者により、創設から発展、改組、規約制定、事務局と財政部の活動、国際機関との協力、発展途上国および大気問題の特別企画、そして、21世紀への展望がまとめられる。約100ページの出版物で大会当日参加者に配布される。大会講演集としては全体の代表講演の全文と部会招待講演の要約が、その他は研究発表者の名前と演題名が載せられる。ただし、研究報告の全文を部会のプロシーディングとして出版できるように努力中である。

参加および研究発表申し込み方法

第1回案内状が本年7月に、第2回案内状が12月頃までに発行されるので、それに従えば参加申し込みには問題はない。ところで招待講演や研究発表を希望する場合はまったく別である。これには一定の様式や期限、案内はない。主要部分は部会ごとにすでに決まりかけている。発表を希望する時は、今、ただちに、発表内容が該当する分科会長（Subject）に手紙を書くことが必要で

第4部会と第6部会の場合の研究発表スケジュール

時 間	9月2日	9月3日
8.00 - 10.00	Joint meeting I Div. IV+VI	Group sessions
10.00 - 10.30	Break	Break
10.30 - 12.30	Group sessions	Group sessions
12.30 - 14.00	Lunch	Lunch
14.00 - 15.30	Group sessions	Joint meeting II Div. IV+VI
15.30 - 16.00	Break	Break
16.00 - 17.45	Poster session	Separate Divisional meeting Div. IV
17.45 - 18.15		Business meeting Div. IV

ある。研究発表の時間、形式は部会ごとに決定している。そして、テーマもユフロ100年記念に対応するものであるので早急な連絡が必要である。

おわりに

記念大会事務局は次の通りである。また、私あて、質

問いただせば、現状はお答え出来る。有意義な記念大会に、準備よく参加いただきたい。

Hans Joachim

Forschungsanstalt für Forst-und
Holzwirtschaft Alfred-Möller-Str. 1
1300 Eberswarde-Finow

「林業苗畑病虫害分科会」の集会に参加して

島根県林業技術センター 周 藤 靖 雄

「林業苗畑病虫害分科会 (IUFRO Working Party S 2. 07-09)」の第1回集会が1990年8月22~30日、カナダのブリティッシュ・コロンビア州、ビクトリア大学を中心に開催された。議長を務めたのは、本会設立の発起人であるカナダ森林局 Pacific Forestry Centre の J. Sutherland 博士である。参加者は13か国 (カナダ、アメリカ合衆国、アルゼンチン、ブラジル、ノルウエー、スウェーデン、イタリア、チェコスロバキア、インド、フィリピン、中華人民共和国、日本、オーストラリア) から約50名を数えた。カナダとアメリカ合衆国からは

多数が参加したが、他の各国からは1~3名に留まり、日本からの参加は筆者のみとなった。

集会の日程はつぎのとおりであった。

8月22日 開会

23日 病虫害発生現況についての報告会——14か国

24日 野外研修会 (1)——1苗畑と1育種場

25日 講演会 (1)——4題

27日 土壌病原菌についての研修会 (1) 講演会 (2)——3題

- 28日 土壌病原菌についての研修会 (2) 野外研修会 (2)—1 苗畑
 29日 研究発表会—13 題
 30日 閉会

筆者は報告会において「島根県における林業苗畑の病虫害とその防除」を、また研究発表会において「ヒノキの *Pestalotiopsis glandicola* による発病に及ぼす接種条件」を報告・発表した。

以下、各会ごとくにその概要を記す。

1. 病虫害発生についての報告会

育苗樹種は北半球の温帯では各種針葉樹が、熱帯と南半球では針葉樹のほかに各種広葉樹（とくにユーカリ）も多い。育苗方法については、近年カナダやアメリカ合衆国では露地苗畑 (bareroot nursery) に代わって箱栽培 (container nursery) が増加している。箱栽培とは発泡スチロールの長方体に穴を明け、泥炭・パーミキュライト・パーライト・肥料を混合したものを詰めて播種し、これをハウス内または野外に置いて育苗する方法である (写真-1)。熱帯では、ココヤシなどの日覆いの下に置いた台で、プラスチックや竹筒などの容器内に土を入れて育苗している。病虫害の発生状況はつぎのように要約される。

- 1) 土壌病害—苗立古病、根腐病などが世界的に共通した重要病害である。
- 2) 主要な葉枯・胴枯性病害の種類は国・地域によって異なる。
- 3) 頻繁な散水によって過湿になりがちな箱栽培では、灰色かび病 (gray mold) の多発が問題視されている (写真-2)。
- 4) 虫害では、根切虫、ゾウムシ類およびアブラムシ

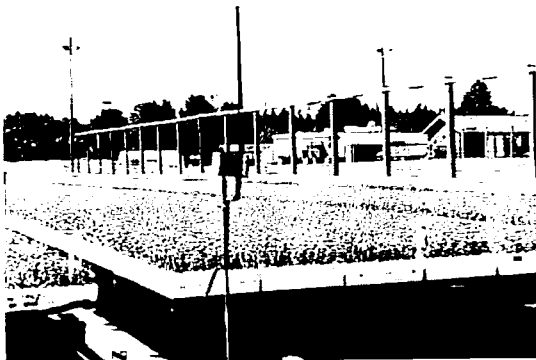


写真-1 Container nursery (野外) — Koksilah Nursery



写真-2 Container nursery で発生したダグラスファーの灰色かび病

類の加害が多国で問題視されている。

2. 研究発表会

内容別に分けてつぎの発表があった。

- 1) 種子病害 3 題—種子の汚染 (1)、種子消毒 (2)。
- 2) 土壌消毒 6 題—*Phytophthora cinnamomi* による根腐と防除 (1)、苗立枯病の菌根菌による防除 (1)、ユーカリの苗立枯病・根腐病 (2)、土壌消毒 (2)。
- 3) 葉枯性病害 1 題—ベスタロチア病の発病条件 (1)。
- 4) 虫害 3 題—アメリカの林業苗畑での虫害状況 (1)、土壌害虫 (1)、アブラムシ類 (1)。

3. 講演会

今日的に重要なつぎの課題について講演があった。

- 1) 単クローン抗体 (A. Ekramoddoullah, カナダ) 針葉樹種子中に潜伏する オーストラリア *Sirococcus* 葉枯病菌の血清学的診断を行う前提として、本菌に特異的に反応する抗体の検索。
- 2) 苗畑病害の生物的防除 (P. Axelrood, カナダ) 苗立枯病などの土壌病害を中心に、病原菌にきつ抗して発病を軽減する菌類、その作用および防除への利用の試み。
- 3) 苗畑への菌根菌の施用 (C. Cordell, アメリカ) 外生菌根菌 *Pisolithus tinctorium* の施用によって、苗木の重量などの質が向上し、林地に植栽後は生存率が高くなり成長が良好になる。アメリカでは年々施用苗木が増加している。
- 4) 林業苗畑での土壌消毒法 (S. Campbell, アメリカ) アメリカの露地苗畑ではメチルプロマイドナク

ロルピクリン混合剤などが一般に施用されていて、高い殺菌・線虫・虫・雑草の効果をj得ている。施用作業はすべて機械化されている。

5) コンピューターによる苗畑病虫害発生記録の保管 (J. Dennis, カナダ)

6) コンピューターによる苗畑病虫害の診断 (A. Thomson, カナダ)

5, 6) とも、実演を伴って説明があった。

7) メクラカメムシによる苗木の被害 (D. South, アメリカ) 近年カナダ, アメリカなどで問題化している。多樹種で苗木頂部が萎縮を起こす。

4. 土壌病原菌についての研修会

1) *Phytophthora* と *Pythium* 属菌の分離と同定 (P. Hamm, アメリカ)

2) *Fusarium* 属菌による針葉樹苗木の病害 (B. James, アメリカ)

まず、林業苗畑での被害実態、菌の土壌・発病苗木からの分離法および種の同定法についての講演があった。ついで、培養菌を観察・検鏡しての同定の実習があった。

5. 野外研究

1) Koksilah Nursery (Odin Industries Ltd.) 敷地面積 20 ha に採種園と container nursery がある。

2) Saanich Forestry Centre (Canadian Pacific Forest Products Ltd.) 採種園 21 ha, ハウス内の container nursery 15 棟, 計 8,000 m² がある。

1, 2) とも民営の苗畑である。苗畑の経営, 作業, 病虫害発生・防除などについて説明を受けた (写真-3)。

3) Cowichan Lake Research Station ブリティッシュ・コロンビア州の林木育種場であり, 敷地面積は 300 ha に及ぶ。母樹の選抜, 母樹の増殖, 育種管理 (採種・育苗など) および植栽試験を実施している。採

種園や試験現場を見回り, 説明を受けた。

最後にいくつかの総合的な感想を述べたい。

1) 多様なプログラムであり, 各プログラムが深い内容を持ち, また実習を含む研修があるなど, 大変有益で, しかも楽しく過ごした。

2) 土壌病害が世界に共通する重要病害であることを再認識した。外国では多方面に及ぶ綿密な研究が行われていることに感銘を受けた。

3) 大規模で周倒な管理による container nursery に驚いた。このような育苗方式を可能にしているのは, (1) 総合的な技術の確立, (2) 当育苗法で生産される苗木の形質 (日本での優良苗木に比べて枝張りが小さく根量が少ない) が植栽苗として適切, (3) 安定した多量の苗木の需要——などであろう。欲をいえば, こうして生産された苗木の林地での成長を見たかった。

なお, 次回の集会は 4・5 年後にオーストラリアにおいて B. Brown 博士 (Queenland Forest Service) が世話役となって開催される予定である。



写真-3 野外研修で苗畑病虫害の説明を聞く (右側の立木は採種木) —— Saanich Forestry Centre ——

<研究集会のお知らせ>

「ウッド・バーニング '92」

第2回木材防火専門家会議が, Zvolenの林業・木材工学大学創立40周年を記念して, ユフロ S5.03-04 と共催で開かれる。

日程 1992年6月1~5日

場所 Strbske Pleso, High Tatras, Czecho-Slovakia
申込先 (大会本部) Dr. Anton Oswald, University
of Forestry and Wood Technology, Faculty of Wood
Technology, CS 960 53, Zvolen, Czecho Slovakia
(ファーストアナウンスメント 1991.4 より)

(事務局)

《研究集会などのお知らせ》

S 1.02 (立地) 報告

サブジェクトリーダーからの連絡内容をお知らせします。

1. S 1.02-11 (土壌物理) 及び S 1.02-12 (土壌生物) は過去長期にわたり活動しなかったので解消する。また S 1.02-05 は前期活動しなかったので“林地における廃棄物の影響”というもっと現実的な目標を設定し、活性化を図るよう勧告された。

2. 1992年ベルリンで開催される100周年大会を機会に立地に関係する現地検討会を計画するため、東ドイツ Tharandt のフィードラ教授と連絡をとっており、協力するとの同意を得た。

3. 100周年記念大会の会期中(1992・8・31～9・16)、第1部会は9・2～3の間に研究グループとしての分科会を計画している。課題は“100 years research in forest ecology — problems of the past, today and in

future”である。

4. 分科会には各 W.P. から1ないし2篇、研究グループとして総計6ないし8篇の招待論文と限定数のポスターが認められている。論文の発表時間は十分な討議を含め40分程度とする。課題は100周年記念の趣向に合致し過去100年間の生態学的問題を展開したものであること。それぞれの W.P. は出来るだけ早く、発表者と題名を知らすよう。ポスターも歓迎であるが、間もなく出されるアナウンスメントを見るよう。

5. S 1.02 では9・5より3日間にわたり、東ドイツで“森林生態系研究”についてブナ林およびトウヒ林における現地検討会を計画している。

6. S 1.02-09 (人工林生産性の維持改善) では1994年にヨーロッパで研究会を開催する予定である。

(脇 孝介)

「森林作業計画・管理の総合的な意思決定」に関する 国際研究集会 (ユフロ S 3.04.01 主催) への論文募集のお知らせ

集会開催時期: 1992年1月27日～31日

集会開催場所: ニュージーランド, クライストチャーチ市

集会のテーマ: INTEGRATED DECISION-
MAKING IN PLANNING &
CONTROL OF FOREST
OPERATIONS

論文応募期限: 1991年7月31日

論文要旨/ポスター概要の提出内:

Dr, Graham Whyte
School of Forestry
University of Canterbury
Christchurch, NEW ZEALAND

Phone: 64 3 642-117 FAX: 64 3 642-124

この会議は以下の目的で開かれます。

① 森林作業を計画・管理するためと既存の、あるいは計画中のシステムを交流・検討しあう。

② (他分野の研究者を交えて) 包括的な論点や概念を明確化する。

③ ニュージーランドの商業的一斉造林地がどのように計画・管理されているか、参加者に視察の機会を提供する。

この会議の開催時期やテーマは、ユフロ S 3.06 および S 3.04.02 のメンバーだけでなく、1月13日～24日にオーストラリアのキャンベラ市で開催されるユフロ S 4.01/S 4.02 の会議の参加者にとっても、魅力あるものにすべく選定されたものです。お問い合わせは、下記へご連絡ください。

〒464-01 名古屋市中種区不老町
名古屋大学農学部林学科 北川勝弘
Tel: 052-781-511 内線 6283
Fax: 052-781-4447

(北川勝弘)

「森林経営・環境保全のための情報システムに関する IUFRO 国際研究集会」
 Integrated Forest Management Information systems
 —An International Symposium—

期日 1991年10月13日～18日

日程 10月13日 登録、歓迎レセプション

14日 開会式、セッション A、ポスターセッション A、セッション B

15日 セッション C、半日ツアー

16日 セッション D、ポスターセッション B、セッション E、懇親会

17～18日 エクスカーション

場所 科学技術庁研究交流センター（〒305 茨城県つくば市竹園 2-20-3 TEL 0298-51-1331）

大会参加費 参加登録費 20,000円（大会諸費用、レセプション、懇親会、プロシーディングス含む）

エクスカーション参加費 18,000円

主催 森林計画学会、IUFRO S 4.02.00、IUFRO S 4.04.00

後援 日本林学会、林野庁、森林総合研究所、日本林業技術協会

協賛 つくば科学万博記念財団、富士フィルムグリーンファンド

目的

今日、内外を問わず、森林資源の管理、環境保全に多大の関心が寄せられています。中でも、熱帯林の保全と戦後に造成された各国の人工林の利用・管理を今後どのように進めるかは緊急の課題となっています。このような課題を解決するためには、各国における森林経営・計画等に関する基本的考え方・施業技術・制度や森林、林業、環境に関する基礎的な情報と情報管理のあり方を相互に知っておく必要があります。

他方、コンピュータの発達により、林業情報システムや木材流通情報システムなどの名前に象徴されるように、情報処理技術が急速に進むと同時に、各国間、現場と研究、官庁と民間の間のコミュニケーションも深まりつつあります。

本研究集会は、このような背景の下で、経営・計画情報システムに関する研究発表を中心に、現場（民間・官庁）と研究機関、各国間、研究グループ間（IUFRO 分科会 S 4.02 と S 4.04）の情報交流を目的に開催するものです。

主な話題

1. 森林計画の今後のあり方（位置づけ、役割、枠組み）
2. 森林施業の基本的考え方と技術
3. 環境および森林機能の評価と林地のゾーニング
4. 森林の調査：データの収集とデータ処理
5. データベースの作成
6. 意思決定支援システム：エキスパートシステム：システム収穫表

7. 画像処理、リモートセンシング：資源・環境モニタリング

8. 森林計画手法：オペレーションズ・リサーチ：シミュレーション

9. 経営の評価：経済計算モデル

発表申込

講演申込はすでに締め切りましたが、ポスターセッションでの発表は7月末日まで受け付けております。ポスター会場にはまだ十分余裕がありますので、ぜひお申込下さい。また、会場へパーソナルコンピュータなどを持ち込んでのデモンストレーションも可能です。ポスター・デモンストレーションでの発表ご希望の方は大会事務局までご連絡下さい。

宿泊とエクスカーション

事務局では、「ホテル・グランド東雲」に部屋を確保しておりますので、宿泊ご希望の方は申込用紙にご記入下さい。一泊およそ7,000円の予定です。なお、確保している部屋数には限りがあります。受付状況によっては別の宿泊施設になる場合もありますのであらかじめご了承下さい。

エクスカーションは、17～18日にかけて茨城県北部の荷見氏経営林・小池氏経営林訪問、笠間焼き体験などを計画しております。参加費は15,000円です。また、15日午後には2つの半日ツアーを企画しています。一つは筑波付近の見学、もう一つは半日東京見学です。参加費は、筑波方面は無料、東京方面は7,000円の予定です。ご希望の方は申込用紙の該当欄にご記入下さい。

登録申込

登録用紙に必要事項をご記入の上、大会事務局総務までお送り下さい。登録用紙は事務局までご請求下さい。参加の申込は大会当日まで受け付けておりますが、エクスカーションへの参加申込は7月末日までをお願いします。なお、参加費はシンポジウム会場受付にてお支払下さい。

Session Program (仮)

□ (14日 9:30-12:00) セッション A (Integrated and computerized systems for forest management) : The Impact of Artificial Entities (Artifacts) on Conceptual Data Models in Natural Resources (M. H. Pelkki, U.S.A.) / Integration of Remote Sensing Technology with GIS for Tropical Forest Management (沢田治雄) / Studies on forest management system by personal computer (酒井敬朗) / The Development of Forest Resource Information Processing Automation System (S. Cao, China) / FRIYR: An Integrated and Computerized System for Forest Management and Yield Regulation (B. A. Kilgour, Australia) / Strategic planning of information systems in Finnish forestry (E. P. Mikkola, Finland) / Development of The Stand Master, a database for forest information (R. B. Tennent, New Zealand)

□ (14日 15:00-16:30) セッション B (Stand management and growth modelling) : Integrated Forest Management Information System based on Stand Tables (田中和博) / Simulation of a mixed forest structure in central Hokkaido by three-dimensional analysis (野嶋嘉裕) / Yield Table for Even-Aged Pinus taeda L. Stands by Stem Analysis (N. C. Rosot, Brazil) / A state space stand model for Pinus Radiata in Chile (J. E. de la Maza, Chile) / Stand density management diagrams and their development and utility in Black Spruce management (P. F. Newton, Canada) / Development of a forest management strategy for a New Zealand plantation forest using the FOLPI forest estate modeling system (B. Manley, New Zealand)

□ (15日 9:30-12:00) セッション C (Forest planning and management in general) : Forestry Tenure Management and Planning in Southern China (W. R. Burch, U.S.A.) / Information on people's attitudes toward forest for the planning (今永正明) / Management Strategies for Broadleaved Forests in Kyusyu Island (今田盛生) / The Management Information System "Forstbetriebsrichtung" Implement for an improved management in an estate (O. Griesa, Austria) / An Analysis of Social Forest System in Southern Sri Lanka (M. de Zoysa, Sri Lanka)

□ (16日 9:30-12:00) セッション D (Forest inventory and monitoring) : Stand Information Capture System for Forest Management and Monitoring (増谷利博) / Standstock control and wood quality monitoring in forest management (R. T. Hosokawa, Brazil) / Sustainable Development and Biodiversity in the Boreal Forest (D. H. Kuhnke, Canada) / Automated Spatial Mapping and Inventory System for Analyzing Forest Fire-damaged Area (R. L. Lapitan, Japan) / Quantification of ecological forest site data (M. Niederhofer, Germany)

大会事務局総務担当

〒113 東京都文京区弥生 1-1-1

東京大学農学部林学科森林経理学研究室

箕輪光博, 露木 聡

Tel 02-3812-2111 内線 5201

Fax 03-5689-3845

□ (16日 15:00-16:30) セッション E (Forest planning technologies) : An Application of Fuzzy Goal Programming to the Forestry Management Planning and Decision Making in Taiwan (Y.-C. Yang, Taiwan) / Planning of forest plantation investments with aid of linear programming: A case study of Sao Hill forest, Tanzania (A. S. M. Mgeni, Tanzania) / Multiresource Forest Management and Fuzzy Sets Theory (野上啓一郎) / Determining the standard annual cut by the statistical decision theory (上野洋二郎) / Decision support systems in farm management: Integrating expert systems with conventional problem solving techniques (P. Hyttinen, Finland) / A Linear programming model for the production planning of Pinus caribaea hondurensis forests in Agudos, Sao Paulo, Brazil (S. A. Machado, Brazil)

□ (14日 13:30-15:00) ポスターセッション A : Selective cutting planning system of natural forest by FSD (石橋整司) / An Integrated Computer-based System of Forest Management in Natural Selection Forest (山本博一) / A Prototype expert system for a decision-making of thinning schedule (松村直人) / Some aspects of thinning techniques in Shikoku, Japan (高橋文敏) / A Prototype Decision Support System for a Selection-Forest (T.-Y. Song, China) / Yield prediction of Abies sachalinensis MAST plantations based on various thinning method (阿部信行) / Use of expert systems in forest management: An application for the evaluation of recreational potentialities (M. Bianchi, Italy) / General system theory and relative growth (Li Bin, Japan) / Predicting log products in a newly established plantation area (Satoshi Tatsuha, Japan) / A system approach to the analysis of the growth of natural forests (Yasumasa Hirata, Japan) / Neural Network Applications to Forest Stand Stocking Control (J. Chung, Korea) / Database of Forest Information in Ashu Experimental Forest of Kyoto University (酒井敬朗)

□ (16日 13:30-15:00) ポスターセッション B : 100 years of Yamasaki national forest management in Japan (魚住伸司) / Geographical estimation of broad-leaved forest resources in Japan (松本光朗) / Design of acid rain and environmental monitoring system in Japan (西川匡英) / Application of Information on Site Productivity to Forest Management - A tree height prediction from interpreting of topo. maps (寺岡行雄) / Information System for the Private Forest Management (竹内公男) / Estimation of the way of forest park management (Akira Hiyano, Japan) / Quantitative assessment of visual amenities in urban forests (野田巖) / Planning in forestry enterprise by using linear programming (J. R. Scolforo, Brazil)

(箕輪光博)

第4. 第6部会合同モスクワ研究集会

100年記念大会に引き続いて、モスクワで下記の研究集会が開かれる。研究交流面でソ連のベレストロイカが強く実感される。関連分野の研究者の参加が期待されている。

Inter-divisional meeting between Division IV and Division VI in Moscow in 1992—Integrated sustainable multiple-use forest management under the market system—

- 9月7日: (1) Welcome speech (2) Overview of current market systems as the relation to forest management
(3) Strength and weakness of the

market system in forest management

8・9日: Excursion in Moscow Region

10日: (4) Forest policy (5) Forest economics

11日: (6) Forest laws (7) Forest planning

12日: Departure

連絡先: 下記あるいは東京農工大学・木平勇吉 0423-64-3311まで。

Dr. Neils Koch, Danish Forest Institute Skovbrynet 16, DK-2800 Lyngby Denmark
(木平勇吉)

「森林作業と環境保護」(P 3. 08-00) (新プロジェクトグループ) 組織ミーティング

森林作業、機械、道路等の森林環境への影響と改良方法の研究を目指した新プロジェクトグループ 'Forest Operations and Environmental Protection' の組織ミーティングが開催される。本ミーティングで、新P.G. の目標、計画、構成、役員等が決定される。暫定委員会により提案されている構成は P 3. 08. 01 Site damage caused by forest machines and road building. P 3.08.02 Improvement of trafficability. P 3.08.03 Forest operations on sensitive sites. P 3.08.04 Methods and techniques for site protection and improvement. P 3.08.05 Site amelioration techniques.

期間 1991. 8. 27-28

場所 Oslo, Norway.

内容 講演 (Norway, Sweden, Brasil, USA, New Zealand 等からの約10人の演者が予定されている), ビジネス・ミーティング, ミニエクスカーション

本部・連絡先 Norwegian Forest Research Institute, Department of Forest Operations, att: A.M.F. Giedtjernet

参加申込締切 8月1日 (不参加者のメンバー登録のみの申し込み可)。

「薬用・香料植物研究国際会議」

上記会議が開催される。バイテク・遺伝子工学, 抗ガン薬用植物, 森林の富の保護, インドの伝統薬, 同種療法, 生理学・生化学・薬物学・QC, リューマチ・心臓病薬, 薬用・香料植物の病虫害防除, 子供保健, 部族知識の普及の10のセッションが予定されている。

期 間 1991. 11. 25-28, Field Trip (11.29), Post-Conference Session (11.30, Session X)

場 所 Calcutta, India

主 催 IUFRO, International Association for

the Study of Medicinal Forest Plants (IAMFP), Indian Society for Promotion of Medicinal and Aromatic Plants (ISMAP)

連絡先 Dr. Ms. Satwana Mukherjee, Secretary General, 131/A, S.P. Mukherjee Road, Calcutta-700 026, India

登録締切 アブストラクツ 1991. 6. 30, フル・ペーパー 1991. 9. 15

詳しい内容, 連絡先等は IUFRO-J 事務局にも案内のコピーが有ります。

IUFRO News 未掲載のサーキュラーを紹介しまし

た。事務局でも開催の把握できない研究集会等がありますので関連の方は, 研究集会の案内記事あるいはサーキュラーのコピーでも, お寄せ下さい。 (事務局)

平成2年度ユフロ J 機関代表会議報告

標記会議は、恒例により林学会の会期中に当たる4月4日名古屋大学農学部会議室に於て開催された。

出席者は A 会員 25 機関, B 会員 6 機関, 合計 33 名であった。

(ユフロ理事) 佐々木恵彦, (北海道大) 霜取 茂, (岩手大) 橋本良二, (山形大) 塚原初男, (宇都宮大) 笠原義人, (東大林学) 鈴木和夫, (東京農大) 右田一雄, (東京農工大) 木平勇吉, (日本大学) 片岡寛純, (新潟大) 竹内公男, (信州大) 北沢秋司, (静岡大) 岩岡 治 (名古屋大) 戸松 修, (三重大) 笠原六郎, (京大林学) 神崎康一, (島根大) 滝本義彦, (高知大) 山本 誠, (九州大) 矢幡 久, (鹿児島大) 下川悦郎, (琉球大) 屋我嗣良, (森林総研) 小林富士雄・勝田 証・松田敏誉・村上公久, (日林協) 蜂屋欣二, (王子製紙) 野堀嘉裕, (北海道林試) 畠山末吉, (岩手林試) 菅原誠司, (埼玉林試) 原口雅人, (愛知林業セ) 中川 学, (滋賀森林セ) 吉川 章, (奈良林試) 柴田毅次・和田美明。

会議は小林ユフロ・J 議長の司会により、議事次第に従って進められた。

小林議長挨拶: ユフロ J 事務局体制に変更があり、幹事長(事務局長)は小沼順一氏から緒方健氏に引継がれた。ユフロ本部組織では、小林は理事を退き、佐々木教授が新しく理事に、木平教授が引続き拡大理事会メンバーとして先のカナダ大会で選任された。評議員については、前理事がこれを務めるというこれまでの経緯に従いがい、1月に文書でお願いした通り、小林が代表に、佐々木教授が代表代理に推薦された。

ユフロ SPDC 活動については、J news No. 34, 熱帯林業 20 号等書いたように、この度、日本が初めてこの計画を実行する機会に恵まれ、文書でお知らせしたように、小さなワークショップをユフロ J の名のもとに、運営した。その意味でユフロ J の活動域はこれから拡大することになる。みな様のご協力をお願いしたい。

引続いてユフロ 100 年祭について木平教授よりご発言を賜りたい。

木平教授: ユフロ 100 年祭は 1992 年 8 月 31~9 月 5 日、ベルリンで開かれる。通常のユフロ活動は、将来の森林を考える方向で行なわれるが、ここでは、これまでの森林科学を考える、言い換えると、私達が大きく影響を受けたドイツ林学をふり返って見ることに意義があると思う。個々の研究発表の場もさることながら、幅広い視野をもってユフロ 100 年を見つめようと言うイベント

になるであろう。

続いて議事に入り、4つの案件ごとに報告、承認が行われた。

議事 1. 平成2年度事業報告

(1) IUFRO-J NEWS の発行

No. 40, No. 41, No. 42 (各 1,300 部)

ユフロ J news は、ユフロの歴史、カナダ大会参加報告を中心に貴重なご協力を頂き 3 号合計 82 頁と充実することができた。

(2) 会員の現況 (1991. 3. 31 現在)

A 会員 32 機関 957 名

B 会員 14 機関 17 口

C 会員 12 名

B 会員 14 機関中 3 機関が 2 口加入 (1 万円) となっているが、全機関がこれにならわれることを期待したい。

(3) 第 19 回世界大会へ向けての活動

IUFRO-J 会員への世界大会参加助成。

カナダ大会参加助成事業は(財)林業科学振興所の協力を頂き、前回ユーゴスラヴィヤ大会の経験を参考にして実施された。申込締切日の 5 月 7 日までに申請した 53 名(役員 5 名, 招待論文 8 名, ボランティア論文等 40 名)の方々に総額 283 万円, 振込料 36,977 円合計 286 万 6,977 円の支出を行った。

(4) 1991 年~1995 年ユフロ国際評議員推薦。

議事 2. 平成2年度会計報告

(1) 一般会計収支決算報告(別掲の通り)

(2) 特別会計収支決算報告(別掲の通り)

(3) 平成2年度会計監査報告

ユフロ・J 監事 小泉 孟氏 欠席のため蜂屋欣二氏(日林協)より以下の報告が行われた。

監査報告書

平成2年度ユフロ-J 事業会計について監査を実施した結果、各種帳簿並びに証拠書類はいずれも、正確に整理・記録されており、本件経理は適正であったことを認める。

平成3年3月31日

ユフロ-J 監事

日本林業技術協会 常務理事

小泉 孟 ㊟

議事 3. 平成3年度事業計画案

(1) IUFRO-J News の発行

No. 43, No. 44, No. 45.

平常年となるため、1号のページ数は8~16ページとなる予定である。

(2) ユフロ100年祭にむけての取組み

来年1992年、ユフロは設立100周年を迎え記念行事が計画されており、普通の世界大会と同様の意義を認めて、カナダ大会での会員への参加助成予算の1/2~1/3の範囲内でベルリンの記念大会への参加助成を実施したい。予算実行は来年(平成4年度)であるがユフロJの事業として取組みたい。

議事 4. 平成3年度予算案(別掲の通り)

一般会計支出の部について、項目旅費は毎年開かれるユフロ理事会へ出席するための旅費助成が内容である。今年度は4月中旬にオーストラリアでの開催が決ってお

り、ユフロJから佐々木、木平両教授が出席されるため、予算30万円は支出済みである。ユフロ理事会は来年の100年祭の準備等で今年度もう1度開催されることも考えられるので、予算案はその対策として予備費に30万円を計上して提案したところ、会場から、「予想される理事会への参加を助成することは重要であるから、予備費とせず、当初から旅費として計上する方がよいのではないか」との指摘があり、事務局はこれを了承、別掲のように改められた。

議事終了後次の報告が行われた。

村上公久氏：ユフロ SPDC 活動の一環としてユフロ・Jの旗のもとに実施されたワークショップ(インドネシア、ボゴール、1991年3月26~28日10ヶ国20名参加)“フタバガキ科の増殖のための Bio. refor 計画”について。

佐々木恵彦氏：“CGIAR(国際農業研究協議グループ)の林業研究組織をめぐる動き”について。

(事務局)

(1) 平成2年度一般会計収支決算書

(収入の部)

科 目	収入予算額	収入決算額	備 考
前年度繰越金	375,026	375,026	
会 費			(確定会員3名減)
元年度未納分	92,000	89,000	
平成2年度会費	1,048,000	944,000	
A会費	964,000	859,000	
B会費	75,000	75,000	
C会費	9,000	10,000	
雑収入	1,000	7,887	(預金利息)
特別会計より返戻	198,575	198,575	
合 計	1,714,601	1,614,488	

(支出の部)

科 目	支出予算額	支出決算額	備 考
情報活動費	700,000	700,000	(ニュース印刷費)
会 議 費	120,000	56,060	
旅 費	400,000	400,000	(理事会出席)
雑 費	50,000	44,766	(発送、通信費等)
予 備 費	50,000	0	
次年度への繰越	394,601	413,662	
合 計	1,714,601	1,614,488	

(2) 平成2年度特別会計収支決算書

(収入の部)

科 目	収入予算額	収入決算額	備 考
前年度繰越金 A	6,379,597	6,379,597	
“ B	861,856	861,856	
“ C	1,276,321	1,276,321	
利子収入	269,161	270,072	
合 計	8,786,935	8,787,846	

(支出の部)

科 目	支出予算額	支出決算額	備 考
世界大会参加助成金	3,270,000	2,866,977	(注)
世界大会参加募集経費	100,000	100,000	次年度繰越金の内訳：定期預金、A 2,420,000
世界大会特集号	600,000	568,000	B 1,090,000
特別講演等翻訳料	30,000	10,000	C 1,310,000
一般会計へ返戻	198,575	198,575	小計 4,820,000
次年度以降へ繰越金	4,588,360	5,044,294	普通預金 224,294
合 計	8,786,935	8,787,846	

(3) 平成3年度一般会計予算書(案)

(収入の部)

科 目	収入予算額
前年度繰越金	413,662
会 費	
2年度未納分	105,000
平成3年度会費	1,054,000
A会費	957,000
B会費	85,000
C会費	12,000
雑収入	5,000
合 計	1,580,662

(支出の部)

科 目	支出予算額(原案)	支出予算額(改正案)
情報活動費	700,000	700,000
会 議 費	100,000	100,000
旅 費	300,000	600,000
雑 費	50,000	50,000
予 備 費	300,000	130,662
次年度への繰越	130,662	0
合 計	1,580,662	1,580,662

(4) 平成3年度特別会計予算書(案)

(収入の部)

科 目	金 額
定期預金 A	2,420,000
B	1,090,000
C	1,310,000
小計	4,820,000
普通預金	224,294
予想利子収入	272,000
合 計	5,316,294

IUFRO-J NEWS No. 43

平成3年7月15日

編集・発行：国際林業研究機関連合

日本委員会事務局